

国際情勢の変化と日本

A. アメリカの方針転換 (1971. 1 ニクソン -ショック) ← ヴェトナム戦争の長期化

- ① 2 ニクソン大統領の訪中 (中華人民共和国〈東側〉訪問) を発表 (1971) ※翌年実現
→ 国連が 3 中華人民共和国の加盟 を認め、4 中華民国 (台湾) は脱退。
- ② 5 ドルショック …ドルと金との交換停止発表 (1971) = プレトンウッズ体制の崩壊 (→近現代 9)
→ ドルの価値下落 → 1971. ドルの切り下げ = 各国通貨の切り上げ (6 1 ドル = 308 円)
→ 1973. 各国が 7 変動相場制 に移行 ☆ 1975. 第 1 回 8 先進国首脳会議 (サミット) 開催 (パリ) ← 石油危機

B. 冷戦から地域紛争へ…東西対立による「戦争」は終わるが、紛争はその後も頻発(「背景」に冷戦)

- 9 ヴェトナム戦争と平和協定 (1973) → ヴェトナム社会主義共和国 成立 (1975)
- 10 第 4 次中東戦争 (1973) …パレスチナをめぐるイスラエルとアラブ諸国との戦争
→ 11 第 1 次石油危機 (12 オイル ショック) …OPEC などによる原油値上げ
- 13 カンボジア内戦 (1970~91)、14 イラン革命 (1978~79 反米政権樹立)、ソ連の 15 アフガニスタン侵攻 (1979~89)
↳ 16 第 2 次石油危機 (1979)

17 佐藤栄作

1964. 11~1972. 7 与党：自由民主党 ※岸信介の実弟 のちノーベル平和賞

外交 18 沖縄返還協定 (19 1971) → 返還 (1972. 5. 15) 「核ぬき本土並み」 米軍基地問題など
経済 19 ドルショック (1971. 8) → 19 1 ドル 308 円 への 円切り上げ (1971. 12) …輸出に打撃 (円高)

20 田中角栄

1972. 7~1974. 12 与党：自由民主党

外交 21 日中共同声明 (22 1972. 9) …日中の国交回復 ← 米中共同声明 (1972)
中華人民共和国政府を 中国唯一の合法政府 として承認 → 中華民国 (台湾) とは国交断絶

経済 23 列島改造論 …田中の国土開発構想 列島の分業化と交通網の整備
24 1973 年 25 第 1 次石油危機 (オイルショック) → 26 狂乱物価

物不足とパニック 27 省エネルギー・企業の合理化 など 28 実質マイナス成長 (戦後初)

※ 29 金脈問題 (1974. 11) …田中の資金調達方法への疑惑と批判 → 総辞職 → 高度経済成長の終わり

30 三木武夫

1974. 12~1976. 12 与党：自由民主党 金権政治の改革を推進

1976. 31 ロッキード事件 発覚…航空機購入をめぐる贈収賄事件 32 田中元首相 も逮捕
→ 河野洋平氏ら自民党から離反、34 新自由クラブ 結成 (~1986)

35 福田赳夫

1976. 12~1978. 12 与党：自由民主党

多党化傾向 (→現代)

36 1978. 37 日中平和友好条約 (正式の平和条約) の締結 38 社会民主連合 (1978~94) 結成

39 大平正芳

1978. 12~1980. 6 与党：自由民主党

40 1979. 41 第 2 次石油危機 ※省エネなどの対策で欧米より早く回復 → 42 安定成長 (43 低成長) へ
元号法公布、東京でサミット開催

戦時中・戦後の文化

戦時下 文学 ⁴⁴戦争文学 ⁴⁵火野葦平『⁴⁶麦と兵隊』⁴⁷石川達三『⁴⁸生きてゐる兵隊』
(1938) (1938 →発禁)

⁴⁹日本浪漫派(民族主義・復古主義→ファシズムに同調)…保田与重郎・亀井勝一郎ら

⁵⁰転向文学…プロレタリア文学作家が自らの転向を題材に

島木健作『生活の探求』(1937)、村山知義、中野重治、高見順、林房雄ら

他に、⁵¹島崎藤村『⁵²夜明け前』(1929-35)、堀辰雄(『風立ちぬ』1936)、伊藤整、武田麟太郎、

⁵³谷崎潤一郎『⁵⁴細雪』(1942-48. 軍部の圧力で中断のち再開)、阿部知二、小林秀雄(評論)、

漫画 田河水泡『のらくろ』(→満州へ) 島田啓三『冒険ダン吉』(→南の島へ)

宗教 ひとのみち教団(1931)、創価教育学会(1930)、灯台社(1926)→ 宗教団体会法(1939)などにより弾圧

※⁵⁵言論・出版・集会・結社等臨時措置法(1941)…内閣情報局による統制

→戦争協力体制へ …日本美術報国会(1943)、日本文学報国会(1942)、大日本言論報国会(1942)

…大東亜戦争美術展(1943) 映画・演劇・音楽なども ⁵⁷敵性語の禁止

占領期 1946 文化勲章の復活 1948. ⁵⁸日本学術会議の設立

1949. ⁵⁹湯川秀樹に⁶⁰日本人初のノーベル賞(物理学)…中性子理論

法隆寺金堂の火災→⁶¹文化財保護法 (1950)

1951. ⁶²黒沢明(映画監督)『⁶³羅生門』がベニス映画祭グランプリを受賞

小説 ⁶⁴大岡昇平『俘虜記』、野間宏『真空地帯』、太宰治『斜陽』、坂口安吾『白痴』、
石坂洋次郎『青い山脈』、木下順二『夕鶴』、三島由紀夫『仮面の告白』ほか

その他 ⁶⁵丸山真男(政治学)、大塚久雄(経済学)、川島武宜(法社会学)、溝口健二(映画監督『雨月物語』)

⁶⁶美空ひばり(歌手)、並木路子「リンゴの唄」、⁶⁷手塚治虫、長谷川町子(漫画家)など

高度成長期

⁶⁸テレビ放送(1953～)、⁶⁹原子力発電(1957～)、人工衛星(国産は1970～)などの新技術

⁷⁰文化庁の設置(1968)←⁷¹文化財保存運動 モータリゼーションの進行

⁷²核家族(夫婦と未婚の子どものみ)化の進行 ⁷³中流意識 都市化の進展 マイホーム主義的
ノーベル賞…⁷⁴朝永振一郎(1965 物理学)、⁷⁵川端康成(1968 文学)、江崎玲於奈氏(1973 物理学)

⁷⁶消費革命 50年代後半以降…⁷⁷テレビ・洗濯機・冷蔵庫(「⁷⁸三種の神器」)

60年代後半以降…⁷⁹カラーテレビ・マイカー・クーラー(「⁸⁰3C」 「⁸¹新三種の神器」)

小説 松本清張『点と線』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、⁸²大江健三郎氏『飼育』

…のちノーベル文学賞(1994)

【センター正誤問題に挑戦】<1999年度日本試験 日本史B1996本試験より>

- ① 高度成長期には、先進国首脳会議(サミット)が開かれるようになり、日本もこれに参加した。
- ② 1960年代、湯川秀樹、朝永振一郎らが相次いでノーベル物理学賞を授与され、川端康成がノーベル文学賞を受賞した。